

[資料] 神奈川県内陸中部での関東大震災の跡

—伊勢原・厚木・海老名・綾瀬・大和・座間—

名古屋大学減災連携研究センター* 武村 雅之

Report on the Field Survey for the Memorial Matters from the 1923 Great Kanto Earthquake
at Isehara, Atsugi, Ebina, Ayase, Yamato and Zama Cities in Central Kanagawa Prefecture, Japan

Masayuki TAKEMURA

Disaster Mitigation Research Center, Nagoya Univ.
Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

Many memorial towers and monuments have been constructed for the heavy toll of life and for the restoration of villages or cities in Southern Kanto district. Death claimed a toll of about 105000 totally from the 1923 Great Kanto earthquake. These towers and monuments must be forever witnesses to the tragedy of the earthquake damage and spokesmen for the victim's dying wish "don't repeat such damages". However, most of them have been already forgotten by the citizens. We thought it's sacrilege and must use them for the public education of earthquake disaster prevention. This manuscript is a report on the field survey for the memorial matters from the Great Kanto earthquake at Isehara, Atsugi, Ebina, Ayase, Yamato and Zama Cities in Central Kanagawa Prefecture.

Keywords: Memorial Tower, Great Kanto Earthquake, Isehara, Atsugi, Ebina, Ayase, Yamato, Zama

§ 1. はじめに

筆者は、関東大震災の慰霊碑や記念物などを訪ねて、今後の地域防災活動に用いる資料としてまとめる活動を行っている。2010年には地元“ひらつか防災まちづくりの会”のメンバーの協力を得て神奈川県平塚市に残る関東大震災の慰霊碑や記念物などを調査し、資料としてまとめた[武村・篠原(2010)]。また2011年には、地元の“はだの災害ボランティアネットワーク”のメンバーとともに神奈川県秦野市で調査し、同様の資料をまとめた[武村(2011)]。また2012年には現在の東京都23区内を対象にした著書を出版した[武村(2012)]。2013年には神奈川県茅ヶ崎市・寒川町と横浜市を対象にした[武村(2013a, b)]。

今回は神奈川県の中央部、相模川を挟んで、右岸の伊勢原市、厚木市、左岸の海老名市、座間市、綾瀬市、大和市を対象に調査した。これらの地域はそれぞれ平塚市と茅ヶ崎市・寒川町の上流部に当る。

現地調査は初回2008年12月13-14日に行い、さらに2013年4月30日から5月2日の3日間をかけて行った。

§ 2. 神奈川県内陸中部地域と被害

対象とする地域は関東地震当時、中郡、愛甲郡、高座郡に属し、伊勢原市は2町5村、厚木市は1町12村、海老名市は2村、大和市は2村よりなり、綾瀬市と座間市はそれぞれ綾瀬村と座間村で領域は変わっていない。表1に諸井・武村(2002, 2004)を元に、対象地域の各町村毎の被害状況をまとめた。住家の全潰率を見ると、相模川右岸の伊勢原・厚木市域では、南部で高く北部で低い傾向がある。特に厚木市域の相川村では全潰率が100%に及び(100%を超えているのは統計上の誤差である)、死者も人口が多い厚木町をしのいで28名にも達している。一方、中部から北部にかけての村々では全潰率も10%以下で死

* 〒464-8641 名古屋市千種区不老町
電子メール: takemura.masayuki@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

者もわずかである。このような傾向は、相模川左岸の地域でも同様で、南部の海老名・綾瀬市域で被害が多く、北部の大和・座間市域では比較的被害が少ない。大和市の渋谷村で死者数が多いのは、現在藤沢市になっている長後の持田製糸の第2工場が倒壊、職工270名中男2名女14名の合計16名が圧死したためと推察される[西坂(1926)]。この工場は現在の長後天満宮の近くにあり、渋谷村長の持田初次郎が経営していた。

表1 当時の神奈川県内陸中部地域の被害[諸井・武村(2002, 2004)による]
Table 1 Summary of damages for old municipalities in Central Kanagawa Prefecture.

現在の市	旧郡	旧市区町村	世帯数	被害世帯数			全潰率 (%)	死者数		
				全潰	焼失	流埋		総数	全潰	流埋
伊勢原市	中郡	岡崎村	297	260			87.54	16	16	
	中郡	大田村	409	259			63.33	24	24	
	中郡	伊勢原町	776	296	3		38.14	13	13	
	中郡	比々多村	567	210	5		37.04	11	11	
	中郡	成瀬村	481	178			37.01	13	13	
	中郡	高部屋村	634	170	1	7	26.81	1	1	0
	中郡	大山町	325	7		51	2.15	8	1	7
厚木市	中郡	相川村	426	429	1		100.70	28	28	
	愛甲郡	厚木町	983	486	24		49.44	27	27	
	愛甲郡	南毛利村	686	164			23.91	6	6	
	愛甲郡	妻田村	157	30	1		19.11	2	2	
	愛甲郡	小鮎村	646	63	7		9.75	1	1	
	愛甲郡	玉川村	460	42			9.13	1	1	
	愛甲郡	三田村	186	7			3.76	0		
	愛甲郡	依知村	586	17			2.90	1	1	
	愛甲郡	林村	82	1			1.22	0		
	愛甲郡	萩野村	751	9			1.20	1	1	
	愛甲郡	及川村	86	1			1.16	1	1	
	愛甲郡	下入川村	126	1			0.79	0		
	愛甲郡	棚澤村	50	0			0.00	0		
	海老名市	高座郡	有馬村	651	596	1		91.55	9	9
高座郡		海老名村	914	440			48.14	31	31	
綾瀬市	高座郡	綾瀬村	946	573			60.57	13	13	
大和市	高座郡	渋谷村	775	114			14.71	21	21	
	高座郡	大和村	716	44			6.15	0		
座間市	高座郡	座間村	955	41			4.29	1	1	

* 流埋は土砂災害による流失・埋没を示す

* 岡崎村の一部は現在平塚市、渋谷村の一部は藤沢市

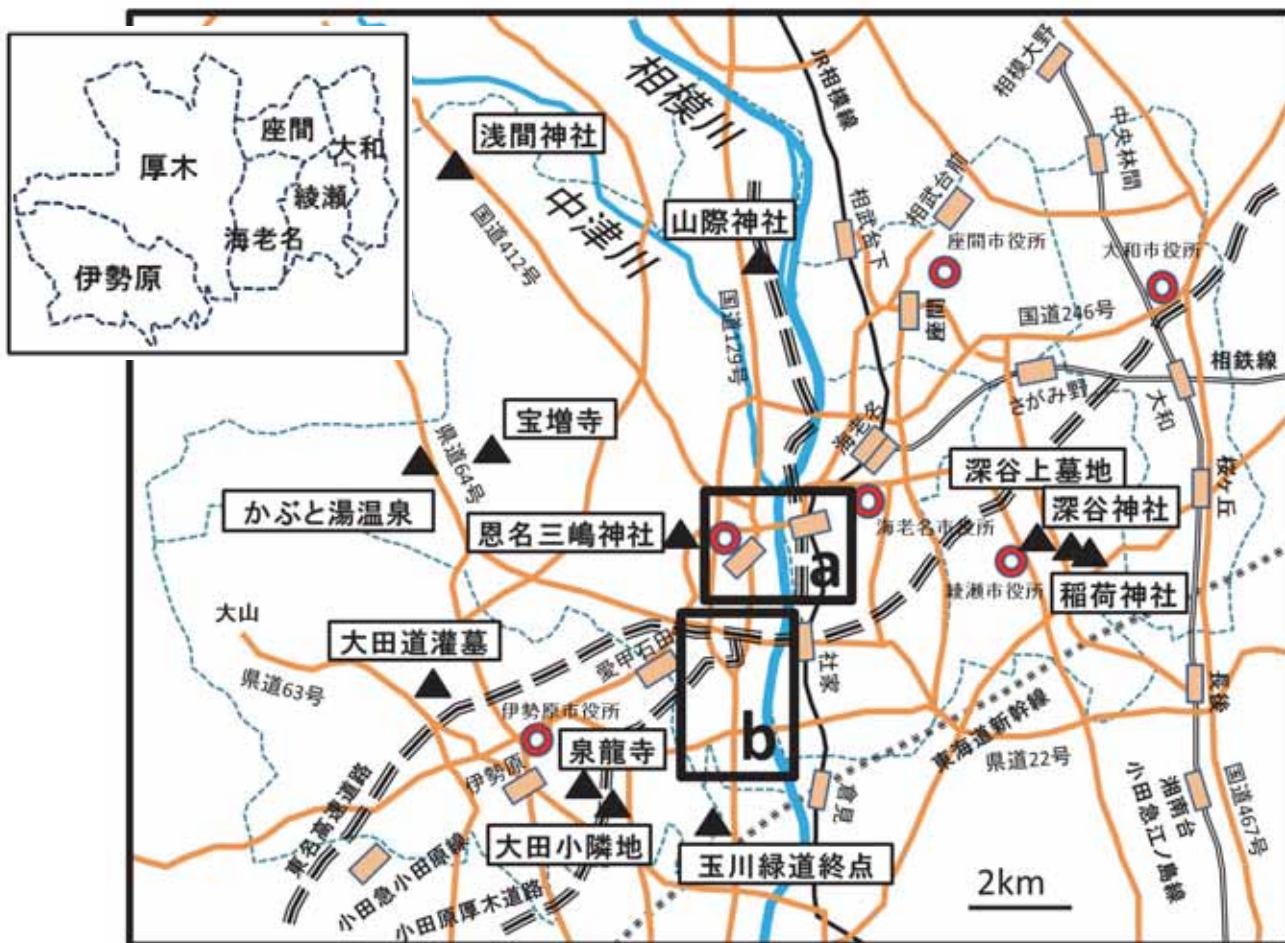


図1 調査地域

Fig.1 Map of the survey areas



図2 厚木中心部と海老名

Fig.2 The center of Atsugi City and Ebina City .



図3 厚木相川地区

Fig.3 Aikawa area of Atsugi City.

調査にあたっては、力武(1997)や「kasen.net.日本の河と災害」ならびに「関東大震災の跡と痕を訪ねて」などの Web 情報サイトや各市町村の教育委員会などの以下のような調査結果を参照した。伊勢原市文化財協会(2009,2012)による伊勢原市石造物調査報告書第1集ならびに第2集、伊勢原市教育委員会(1972)の「伊勢原の金石文」、厚木市教育委員会(1970)の厚木市文化財調査報告第12集(厚文第12集)、綾瀬市教育委員会(1987)の綾瀬市文化財調査報告書第10集(綾文第10集)、大和市(1982)の

「大和市の石造物」大和市史資料叢書 1 などである。この他にも Web サイトや地元情報、現地調査の途中で偶然見つけたものなどもある。

座間市に関しては、座間市文化財調査委員会による石造物調査委員会編「座間の石造物」1-5 など関連すると思われる文献を調べたが対象物の記載を見つけることができなかった。

§3. 調査地点

調査地点は合計22地点である。図1に調査地域を示す。図中 a は厚木市中心部と海老名市で図2に、b は厚木市相川地区で図3にそれぞれ示す。調査結果は伊勢原市、厚木市南部相川地区と中心部、厚木市北部郊外地域、海老名・綾瀬・大和市の4地域に分けて示す。

碑文は改行位置も含めできる限り原文に忠実に記載することにした。このため本文中で改行できない場合にはその位置に / を入れ改行を表すようにした。また碑文中の○は欠損、摩耗などで読めない字を示す。また各市の教育委員会の石仏調査結果などで碑文が記載されている場合、誤りがあれば訂正し(注)として修正箇所数を明記した。

3-1 伊勢原市

(1) 太田道灌の墓所(伊勢原市上粕屋)

小田急線伊勢原駅北西約2.5km、神奈中バス道灌塚前で下車して北東へ500m余り行くと洞昌院という寺院の隣に鬱蒼とした樹木につつまれた一角がある。太田道灌の墓所である。洞昌院側(正面)から入ると、一番奥の右側に太田道灌を祀る祠がある。その祠に向かって左側に歌碑とともに復旧記念碑が建っている(図4)。

復旧記念碑

(正面)

復舊記念(題額)

大正十二年九月一日至十三年一月十五日両度ノ大地震ノ為メ境内ノ建造物ノ悉ク倒潰破損セリ此ノ時ニ當リ村内ノ諸士及ビ青年ハ道灌公ノ偉徳ヲ慕ヒ全カヲ盡シテ復興ノ實ヲ擧ケ茲ニ靈地ノ莊嚴舊ニ復スルヲ得タリ

(左面)

大正十五年四月三日竣成 太田道灌公靈跡保存會

(注)「伊勢原の金石文」の記載1ヶ所訂正

太田道灌は江戸城を築いたことで有名な武将であるが、主君の上杉定正によって1486(文明十八)年に

この地にあった上杉館で殺された。洞昌院は道灌によって建てられた寺である。碑文によれば、道灌の墓所が本震と翌年の丹沢の余震によって大きな被害を受け、村内(当時は上粕屋村を含め高部屋村)の人々の協力で復興したことを伝える記念碑である。



図4 太田道灌の墓所復旧碑(左). 右は歌碑
Fig.4 Memorial tower of the recovery for the grave yard of Ota Dokan (left side) in Isehara.

(2) 臨濟宗泉龍寺(伊勢原市沼目1丁目)

小田急線伊勢原駅東南東約1km, 神奈中バス西沼目下車, 北東に500mほど歩くと左側に泉龍寺がある。ゆるい坂の参道を登ると山門があり, その右手に地蔵尊などが並んでおり, 一番外側に震災の追善地蔵尊がある(図5)。

震災死者追善地蔵尊

(台座正面) 供養

(台座右面)

大正十二年九月

關東震災死者追善

昭和八年九月建之

(注)伊勢原市石造物調査報告書第2集の記載通り

図5の右側の大きい方が当該地蔵尊で, 説明板には以下のように書かれている。

關東大震災により横死された方々の供養のため, 昭和八年八月岡田医院先代鎌吉先生は, 医院敷地内に地蔵堂を建立, 石造尊像を奉祀されました。

これが偶, 平成元年八月の台風により倒壊破損依って岡田家菩提寺泉龍寺の世話人の配慮により同寺境内に遷座, 地蔵堂が再建されました。

維持, 平成元年十月三日

沼目山 泉龍寺

沼目2丁目(西沼目バス停前)にあった岡田医院は現在は閉院しているが, 先代の遺徳が受け継がれていることが分かる。



図5 泉龍寺の震災死者追善地蔵尊(左)
Fig.5 Jizo statue in Senryu-ji Temple in Isehara erected for the souls of victims.

(3) 大田小学校隣接広場(伊勢原市沼目7丁目)

小田急線伊勢原駅東南東約2km, 神奈中バス大田小学校前で下車すると大田小学校がある。そこから小田原・厚木道路の高架橋方向に戻ると, すぐに小公園がある。小公園には中央に大きな殉国顕彰碑(明治27年から昭和23年までの戦死者対象)があり, 右に忠魂碑(大正8年), 左に震災記念碑がある(図6)

大正震災記念碑

(正面)

大正震災記念碑

博愛書

(裏面)

(1段目)大正十二年九月一日死者/上ヤ(2人)/下ヤ(9人)

(2段目)(つづき2人)/小イナバ(10人)

(3段目)(つづき2人)/ヌママ(5人)/上ヒラマ(3人)
(合計33人)

(4段目)大正十三年一月十五日死者/

小イナバ(2人)

大正十二年九月一日竝翌年一月十五日武相之地突如大/震起本邨亦被害頗多死者及三十餘名凄慘不可名状矣有/志相胥欲為建碑慰其靈以後日之記念及紱其梗槩

大正十三年三月

中郡大田村青年團建之

碑文における“上ヤ”などは明治初期に大田村が成立する前の村名(集落名)で、現在でも地名として残っている。集落ごとに犠牲者の名前が書かれている。また、本震だけでなく、翌年1月の丹沢の余震による死者が区別され、小稲葉の2名が刻まれている。余震でも相当な被害が出たことがわかる。



図6 大田小学校の隣にある慰霊碑

Fig.6 Memorial tower of the park near the Ota elementary school in Isehara for the soul of victims.

(4) 玉川緑道終点(伊勢原市小稲葉)

大田小学校から東へ約2kmほどゆくとほぼ南北に玉川緑道と呼ばれる小道が通り、伊勢原市と平塚市の境を成している。この道は旧玉川の河道にあたる。以前このあたりは、厚木市の七沢から流れてきた玉川と現在もある笠張川の合流点で、玉川はさらに平塚市豊田で現在の渋田川に繋がっていた。付近は玉川緑道の終点で小さな空地がある(図7)。そこに説明板があり、以下のような経緯が書かれている。

旧玉川のゆらい

旧玉川は、大山の東側が源流で、昔は厚木市七沢から平塚市豊田までの約十キロメートルの農業用水路として、大きな役割をはたして来ましたが、大正十二年の関東大震災のあとは、降雨のたびに河床が高くなり、豪雨のときには忽ちはらんして被害が続出し、美田を潤した玉川が人命を奪う魔の川となってしまったので、昭和十九年に現在の新玉川が造られました。その後、旧玉川河川敷は一部を残して開墾され食糧増産に利用されていましたが、近年沿線に家屋が建ち並び、河川敷の有効利用を目的とした環境整備の気運が高まり、平塚、厚木、伊勢原の三市と

県が協議して笠張川合流点より三、二キロメートルの区間を、生活道路と地域コミュニティーの場としての散策道を兼ねた整備を昭和五十四年度から行った。(原文のまま記載)

平塚市市史編さん課(1982)にも、「吉際の水害は玉川の氾濫で毎年ひどかったが関東大震災で玉川が埋まってしまう、改修をして相川村へ通して相模川へ水を落とすようになってからは水害がなくなった。」とある。吉際は隣接する平塚市の旧神田村の一地区である。流路変更がなされた現在の玉川は図3でも確認できる。

この地域のはるか東方を南北に流れる相模川に沿っては自然堤防が発達し、土地がやや高く地震の被害も少なかった。一方その西に広がる後背湿地は田園地帯で自然堤防より低く、玉川はなかなか相模川へ流れ込めず平塚市豊田に向かって南下していた。このため小稲葉や吉際などの地域はもともと水害の危険が多かったが、関東大震災で南部の平塚地域が隆起し、南へも川が流れにくくなり、やむなく相模川上流の相川村付近で玉川の水を相模川に落とすよう新玉川が造られたのである。



図7 玉川緑道(旧河道)の終点

Fig.7 The terminal park of Tamagawa Green Road in Isehara.

3-2 厚木市南部相川地区と中心部

(1) 浄土真宗長徳寺(厚木市上落合)

平塚市の旧神田村の北に厚木市域に属する旧相川村がある。この地域は伊勢原市の大田村にも連なる低地帯で、先に述べたように、今回の対象地域の中では最も大きな被害が出た地域である。図3に沿って伊勢原市に隣接する側から慰霊碑を見ていこう。

最初は小田急線愛甲石田駅南南東約 1.6km で、神奈中バス長沼バス停に近い長徳寺である。近くに神奈川県総合防災センターがある。東側に入口があり寺に入ると正面本堂の右側に大震横死者供養塔(地蔵尊)がある(図 8)。

大震横死者供養塔(地蔵尊)

(台座正面) 慈悲哀愍

(台座左面)

大正拾貳年九月一日

大震横死者

第三年忌供養

願主／當山住職／米山賢誠

(台座裏面) 高部屋村峯岸／石工 細野長平

(台座右面)

功德主

戸田 小塩八郎右衛門／全 大貫太三郎／全 米山

嘉三郎／長沼 柏木新之助／小嶺 鈴木弥吉

(注)厚文第 12 集の記載 2 ケ所訂正

地蔵尊の前に燈籠がありその背面に「愛甲 須藤 鈔」とある。相川村が明治初期に成立した際、戸田、長沼、酒井、上落合、岡田、下津古久の各村が合併した。功德主はそのうち戸田と長沼の人達である。なお小峯は現在の平塚市域の旧豊田村の一地区である。



図 8 長徳寺の供養塔(地蔵尊)

Fig.8 Memorial tower (Jizo) of Chotoku-ji Temple in Atsugi erected for the soul of victims .

(2) 中戸田八幡神社(厚木市戸田)

小田急線本愛甲石田駅南東約 2.5km にある。神奈中バス中戸田下車ですぐの所に中戸田児童館があり、その前の児童公園が八幡神社の境内である。正面

に本殿があり手前に青銅製の鳥居が建っている。鳥居の右側の端に慰霊碑がある(図 9)。

震災慰霊碑

(正面)

大正十二年九月一日正午前二分俄然響アリテ大地震撼シ山河崩レ屋宇仆レ死傷算ナシ特ニ此地ハ震源ニ近シト云ウ惨烈想フベシ今茲恰モ七周年ニ當ル相川村字戸田中分ノ人相謀リ禮位ヲ設ケテ死者ノ魂ヲ祭り併セテ文ヲ石ニ勒シ以テ不慮ノ天災ニ備フルノ用意ヲ来者ニ促ス

昭和四年九月一日

(裏面)

罹災死者十名(10 人の氏名)

(注)厚文第 12 集の記載 2 ケ所訂正

相川村のうち、中戸田地域の七回忌の慰霊碑である。



図 9 中戸田八幡神社の慰霊碑

Fig.9 Memorial tower of Hachiman Shrine of Nakatoda in Atsugi erected for the soul of victims .

(3) 子易神社(厚木市戸田)

小田急線愛甲石田駅南東約 2.3km にある。神奈中バス相川中学校前で下車して中学校と反対の方角(南側)に進むと、道路に面して神社がある。正面入り口はバス道路と反対側の西側にある。鳥居を潜り境内に入ると社殿の右奥に震災記念碑がある(図 10)。

震災記念碑

(正面)

記念碑(題額)

大正十二年九月一日午前十一時五十八分俄然大地震動シ瞬間山河崩レ全村家屋悉ク倒レ死傷者夥シ殊ニ本村ハ縣下ノ最激震地ニシテ慘状極ナシ然ルニ各人ノ辛苦ニ依リ漸ク舊ニ復シ茲ニ恰モ十三年ニ當ル 村人相謀リ碑ヲ建テ犠牲者ノ靈ヲ慰メ併テ文ヲ石ニ刻シ以テ不時ノ天災ニ具フルノ用意ヲ後世ニ傳フ

昭和十年九月一日

(裏面)

罹災者氏名(7人の氏名)

相川村上戸田講中 建之

(注)厚文第12集の記載2ヶ所訂正

相川村のうち、上戸田地域の十三回忌の慰霊碑である。内容は八幡神社のものと大変よく似ている。



図10 上戸田子易神社の記念碑

Fig.10 Memorial tower of Shieki Shrine of Kamitoda in Atsugi erected for the soul of victims .

(3) 相川中学校隣接広場(厚木市酒井)

相川中学校の北側に広場があり鬱蒼と樹木が茂る中にいくつかの石碑がある。中央に殉国碑(支那事变,太平洋戦争), 左側に忠魂碑(日露戦争)そして右側に大震災記念碑が建っている(図11)。

(正面)

大震災記念(題額)

嗚呼維レ時大正十二年九月一日午前十一時五十八分惣焉トシテ地大ニ震ヒ山崩レ地裂/ケ道路橋梁ハ

破壊埋没セラレ到ル處家屋ハ倒潰シ加フルニ東京横濱其他各地ニ大火災/起リテ数十萬ノ生命ト巨億ノ貨財トヲ失ヒ實ニ有史以來空前ノ大悲惨事タリ震災ハ東/京神奈川静岡千葉埼玉等諸府縣ノ地ニ及ヒタリシカ中郡ノ地最モ激震ニシテ我相川村/ノ如キ殊ニ甚シク住家全焼一全潰三百六十九半潰五十五其他建物ノ倒壊数約五百ニ及/ヒ神社々殿全潰七半潰三寺院堂宇全潰二村役場小學校巡查駐在所傳染病隔離舎等ノ建/造物亦悉ク倒潰シ死者三十一名重傷者三十四名ヲ出セリ学者ノ言ニ依レハ震源地ハ伊/豆大島ノ東方海底ニシテ上下動ヲ主動トスル地ニリ若シクハ陥落的地震ナリト而シ/テ餘震踵テ至リ震後三日間ニ大小千七百餘回ヲ算シタリト云ウ 畏クモ

聖上陛下軫念斜ナラス金ヲ下シテ救恤シ給フ本村ノ拜受領三千八百十六圓ニ及ヘリ

因ニ大正十三年一月十五日拂曉再度激震アリ震度ハ前者ニ比スレハ頗ル劣リタルト雖モ本/村ノ被害復少ナカラサリシヲ以テ茲ニ附記ス

(裏面)

大正十三年九月一日建焉

中郡相川村長 大貫彌七

撰文並揮毫

相川村 川崎久治

石工

玉川村七沢中村重治

(注)厚文第12集の記載9ヶ所訂正



図11 相川中学校の隣にある慰霊碑

Fig.11 Memorial tower of Aikawa Village in Atsugi erected for the soul of victims .

一周忌に建てられたもので、先の八幡神社や子易神社のものよりも先に建ったことが分かる。碑文には相川村の被害が詳しく記されている。相川村全体の犠牲者は31名とあり、先の中戸田と上戸田を併せると17名となり半数以上が2つの地域で出たことが分かる。被害の大きい2つの集落では復興にも時間がかかり、また復興の感慨も大きかったために村全体の記念碑の他に碑が建てられたのだろうか。

なお碑文には慣例に従って、陛下が救恤されたくだりは一字空けて「畏クモ」さらに改行して「聖上陛下・・・」と続く。最後の2行についてはここでも翌年1月15日の丹沢の余震のことが書かれており、相川村では再び相当な被害が出たことが分かる。なおその部分については一行分の字数が多く、その分、字画も小さい。後で付け加えられたものかもしれない。

(4) 岡田三嶋神社(厚木市岡田4丁目)

小田急線本厚木駅南約1.7km、神奈中バス岡田下車すぐのところに神社がある。三嶋神社を南側正面から入ると鳥居がある。その右手に鳥居の残欠で造られたモニュメントがある(図12)。前の鳥居の残骸から造られたもので、大変読みにくいが関東大震災からの由来が以下のように書かれている。

鳥居記念碑

(右の石柱)

此の鳥居は明治三十三年九月再建せしか大正十二年九月一日関東大震災の厄に遭遇し倒覆挫折せし為に修理ノを加えしも昭和十五年二月十一日突如大破し最早修理ノの術なし依て皇紀二千六百年記念事業として氏子相圖ノりに造営の議忽ち整ひ工成りしを以て茲に保存す

(右台座右面) 明治三十三年庚子年晩秋建之

(右台座右面) 奉

(左台座右面) 獻

(左台座右面) 厚木町ノ石工ノ秋元信太郎ノ重明。

この鳥居は明治33年の9月に建てられ関東大震災で倒れ折れたがそれを修理して使っていたところ、ちょうど昭和15年の2月11日の紀元節の日で大破してしまった。あたかも皇紀2600年の記念日にあたり、氏子は大慌てで再建したというのである。現在の鳥居にはそのことを裏付けるように以下のように刻まれている。

現在の鳥居

(右柱裏側) 皇紀二千六百年記念

(左柱裏側) 昭和十五年四月建之 氏子中



図12 岡田三嶋神社にある壊れた鳥居の残骸で作られたモニュメント

Fig.12 The monument at Mishima Shrine at Okada in Atsugi made from the materials of destroyed torii.

復興記念碑は本殿の右側奥に建っている(図13)。

復興記念碑

(正面)

復興記念(題額)

噫維持大正十二年九月一日午前十一時五十八分前古未曾有ノ大地震ノハ突如關東ノ天地ヲ震撼シ十萬ノ人命ヲ奪ヒ數十萬ノ家屋ヲ摧キ且ノ巨億ノ物資ヲ灰燼ニ歸セシム當字亦災厄ヲ免ルハ能ハス家屋悉ク潰ノ滅シ慘状言語ニ絶ス時也哉サシモ質實堅牢ヲ誇リシ當三嶋神社ノ社ノ殿モ亦倒潰シ昔日ノ觀無キニ至リヌ歲閱五星霜偶々社殿復興ノ議起ルノヤ氏子喜ヒ勇ミテ寄進シ昭和二年十一月二十三日起工同三年四月十ノ八日日出度落成ス依テ同日遷宮ノ盛典ヲ擧ク社殿ハ規模宏大堂々舊ノニ倍シ神嚴ノ氣漲ルスシテ神靈ヲ安ニスルヲ得タリ是全ク氏子一同ノ赤誠虔禱以テ子孫鎮守ノ神佑ヲ恭承センコトヲ望ムニ外ナラス茲ノニ再建ノ由縁ヲ記シテ永ク後世ニ傳フ 横山直兄選文

(裏面)

昭和三年四月十八日建之

建設者

區長 山口政太郎

氏子総代 本間喜作など3人の氏名

相談役 山口重太郎など4人の氏名

建築委員 山口庄太郎など7人の氏名

(注)厚文第12集の記載9ヶ所訂正、裏面の記載も追加。

2008年12月に筆者が訪れた際には鳥居の残骸はモニュメントの形にはなっておらず放置されていた。また復興記念碑も手前の大木の脇にあったものを現在位置に整備して移したようである。神社を守る氏子の人々の信仰は今も続いているようで、参拝する人、通りすがりに一礼する人などが後を絶たなかった。



図 13 岡田三嶋神社の復興記念碑

Fig.13 Memorial tower of the recovery for Mishima Shrine of Okada in Atsugi.

(5) 厚木神社(厚木市厚木町)

厚木市の中心部に入り(図2)、小田急線本厚木駅東北東約600mに厚木神社がある。神社正面は西向きで、鳥居を潜って境内に入ると右側にここでも倒壊鳥居の記念碑がある(図14)。

鳥居記念碑

(正側)

大正十二年

大震災倒壊記念

(裏側)

文政十一年歳次

戊子夏六 (以下埋まっています読みません)

この鳥居は1828(文政十一)年に建立されたもので関東大震災によって倒壊して無残な姿になったものと思われる。横には「郷社厚木神社」と書かれた古い社標の残骸も建っている。現在の鳥居には建立年の記載はないが、現在の社標の裏には昭和2年7月と建立年が書かれており、震災で被害を受けた鳥居と社標を同じ時期に建て替えたものと思われる。



図 14 厚木神社にある震災により壊れた鳥居の残骸で作られたモニュメント

Fig.14 The monument at Atsugi Shrine which was made from the materials of torii destroyed by the earthquake.

(6) 厚木神社隣地(厚木市厚木町)

厚木神社の隣、相模川に架かる厚木大橋の際に2つの石碑が建っている。左側は史跡として烏山藩厚木役所跡を示す石碑であり、右側に震災記念碑がある(図15)。



図 15 厚木大橋の際にある厚木町の慰霊碑

Fig.15 Memorial tower of Atsugi Villedge near the Atsugi bridge erected for the soul of victims .

震災記念碑

(正面)あゝ九月一日

(裏面)

大正十二年九月一日午前十一時五十八分
激震あり火各處に起り餘震間断なし千八戸のうち全潰五百四十九戸半潰二百八戸
焼失二百五十一戸に上り歿死二十八名負

傷六十四名を數ふ茲に一週年に方り死者の靈を弔ひ碑を建て其災害を記念す

大正十三年九月 厚木町有志

(注)厚文第12集の記載には被害の状況の記述が大きく欠落している他に4ヶ所の誤りがあり訂正。

厚文第12集によれば、この記念碑の題文は厚木町内より募集したもので、厚木天王町の清水弘之氏の作と言われている。碑ははじめ厚木町役場の東側に建てられていたが移転したと伝えられている。成立過程も含め厚木町を代表する慰霊碑と言える。

3-3 厚木市北部郊外地域

(1) 恩名三嶋神社(厚木市恩名3丁目)

厚木の市街地からやや外れた小田急線本厚木駅の東約1kmに三嶋神社がある。神社入り口の鳥居を潜り参道を抜けると広場があり、そこから本殿に階段が通じている。階段上部右側の玉垣の外側に鳥居の残骸で造られた震災記念碑が建っている(図16)。

震災記念碑

(正面)震災記念

(左面)維時天保十二年立

初夏摩訶日 再建焉

(右面)大正十二年九月一日

當村 下煤ヶ谷住 石工



図16 恩名三嶋神社にある震災により壊れた鳥居の残骸で作られた震災記念碑

Fig.16 The memorial tower of Mishima Shrine at Onna in Atsugi which was made from the materials of destroyed torii.

階段の中腹左側に「三嶋神社造営記念碑」が建っており、そこに書かれた由緒を見ると、神社は1839

(天保十)年に修復されたとあり、記念碑左面の鳥居の再建年とほぼ一致する。また現在の鳥居には左柱裏に「大正十五年九月再建」、右柱裏に「氏子中」とあり、関東大震災後に再建されたことが分かる。記念碑はその際に震災で壊れた旧鳥居の残骸から生まれたものであろう。

(2) かぶと湯温泉(厚木市七沢)

小田急線本厚木駅北西約7kmで神奈中バス七沢下車徒歩5分のところにかぶと湯温泉山水楼がある(図17)。

山水楼のホームページによれば、関東大震災のときに、かぶとの形をした岩のふもとから温泉が湧き出したと言われている。その岩は田の中の畳二畳敷き位の大きさの岩で、この一帯の田んぼを村人達は「かぶと岩の田んぼ」と呼んでいた。それがかぶと湯温泉の名前の由来だという。温度は25度以下であるがメタケイ酸とメタホウ酸の含有量が規定値以上で温泉法の温泉に当たる。関東大震災で湧き出して以来、現在もそのまま自然湧出したお湯を使っているという。



図17 関東大震災で湧き出したかぶと湯温泉

Fig.17 Kabuto-yu hot spring beginning to gush up out by the Great Kanto Earthquake.

(3) 曹洞宗宝増寺(厚木市上古沢)

小田急線本厚木駅北西約6kmに位置する。神奈中バス森の里で下車し、背後の恩曾川の源流の沢に向かって上古沢集落へ下ると沢沿いの道に出る。そこから右に折れて約300m行くと左手に宝増寺へ続く階段がある。登り切ったところに境内がある。本堂と反対側の崖の際に本堂と対面するように台座と地藏尊が並んでいる(図18)。元は3段の台座(上・中・

下)の上に地藏尊像が建つ背の高い供養塔であったが、近年倒壊を恐れた住職が地藏尊像を下し、現在は台座と地藏尊立像が切り離されている。

大震災供養塔

(地藏尊立像背面)

彫刻師 北原兼太郎

(台座上段正面) 供養塔

(台座上段左面)

智眼妙照信女 俗名 渡邊ムラエ
東京被服廠跡ニテ

蓮室妙浄信女 俗名 石井セン
長後製糸工場ニテ

(台座上段裏面)

建塔主 渡邊馬吉

漆谷得禪

石井留三

(台座上段右面)

嗚呼天災地變何レノ世カ是レ無カラン大正拾二年九月一日ノ正午関東一帯大地震動シ到處劫火生シ京濱ノ如キ殆ト焦土ノト化ス犠牲者幾十万人タルヤソノ數ト處明カナラスノ慘ノ害ノ大ナル恰モ安政ノ地震ニ明曆ノ大火ヲ併セタル觀アリノ拙納當時横濱ニ在リシモ幸ヒニ危難ヲ免レ不慮ノ最後ヲ遂ケタル精靈ヲ巡悼シ哀愍ノ情禁スル能ハス仍テ茲ニ兩人トノ相謀リ浄財ヲ投シテ是塔ヲ建立シ以テ歿死各靈ノ冥福ヲ資ノ助スルト共ニ一面社會教化ノ機関ニ充テ不言ノ警告ヲ百世ノニ垂レント欲スル者也記シテ以テ誌トナス

維持大正十四年大祥忌命日 寶増現住得禪謹誌

(台座中段前線香立) 奉納

(台座中段裏面)

玉川村七澤

石工 加藤好太郎

(注) 厚文第 12 集の記載 3ヶ所訂正、台座中段の記載追加。

碑文から先々代に当たる第 28 代の漆谷得禪住職が 2 人の女性の死を悼み、遺族と相談して建立したものである。亡くなった 2 人はいずれも他所に働きに出ていて震災に遭遇したようで、一人は東京において避難した被服廠跡で、他の一人は長後の製糸工場ということで、先に述べた渋谷村の持田製糸第 2 工場の倒壊による犠牲者の一人ではないかと思われる。

故郷を遠く離れた地で非業の死を遂げた女性を通して震災の痛ましさを今に伝える供養塔である。



図 18 宝増寺の供養塔(地藏とその台座)

Fig.18 Memorial tower of Hozo-ji Temple in Atsugi erected for the soul of two girls (Jizo and its basement).

(4) 上荻野浅間神社(厚木市上荻野)

小田急線本厚木駅北北東約 10km の神奈中バス上荻野下車すぐのところ国道 412 号線に沿うように浅間神社がある。石段を数段登ったところに鳥居があり、その左脇の鐘楼の前に再建碑が建っている(図 19)

鐘楼再建碑

(正面)

大正十五年十二月十九日愛甲郡荻野村上荻野浅間神社鐘樓罹祝融ノ帰鳥有郷人以為憾焉森屋太吉君生於同郷平素崇敬同神社最篤壯年ノ出京而従事實業偶大正十二年九月一日京濱方面未曾有之大震災突ノ發死傷實上數十萬人而君家在帝都之中央老少悉免災洵可謂大幸君ノ謂是實依神靈冥護之餘德信仰之念益加厚今歳正諛當大震災之七週ノ年君癒感神恩報謝之衷情切茲損淨賤以再建鐘樓今工事漸竣成以得ノ平生之至情矣回顧距今約五十年前余於上荻野小学校執教鞭當時君ノ最上級生徒而常嶄然頭頭角今再邂逅帝都聞君常遥拜同神社禱自家ノ并郷党同胞之安寧幸福余深欽君敬神之至誠與愛郷之衷情今方鐘樓ノ再建之竣成應請記其緣起

昭和五年五月

正四位勲三等檢事小野澤龍吉撰并書
注)厚木文調 12 集(1970)の記載 8ヶ所訂正

鐘樓の再建をなした森屋太吉は上荻野の出身で小学校の師である小野澤龍吉がその行為を顕彰するという形で碑文が書かれている。森屋は地震時東京に住んでいたがさしたる被害もなく、これもひとえに

故郷の浅間神社の神威であると考え、鐘楼を再建したという。



図 19 上荻野浅間神社の鐘楼再建碑

Fig.19 Memorial tower of the recovery of the bell tower belfry in Sengen Shrine at Kamiogino in Aatsugi.

(5) 山際神社(厚木市山際)

小田急線本厚木駅北約 6km に位置し、神奈中バス依知小学校前下車、東に進むと神社の参道がある。鳥居をくぐり長い参道を進むと道路に出る。道路を渡ると左側に市立山際児童館があり、その前に社殿の移転記念碑が建っている(図 20)。社殿はその奥にある。

社殿移転記念碑

(正面)

社殿移転之記(題額)

大正十二年九月一日突如トシテ一大激震起ル實ニ正午前二ノ分時也其響轟雷ノ如ク地裂ケ屋倒レ人畜多ク死傷シ餘震洵ノニ至リテ函嶺以東京濱ノ惨禍蓋シ振古無比ト稱ス超テ十三ノ年一月十五日昧爽復激震アリ我ガ依知村亦被害鮮カラス村ノ社山際神社實ニ此ノ厄ニ會シ背面断崖ノ崩壊延テ境内ニ迨ヒノ殿宇大破シテ将ニ傾覆ヲ見ントス是ニ於テ里民神威ヲ瀆ノサムコトヲ畏レ競ウテ資ヲ獻シテ復舊ヲ謀ル會々中丸重郎ノ兵衛社前ノ地ニ段三畝廿歩ヲ奉進ス仍テ神奈川縣廳ノ許可ノヲ経テ移轉工事ヲ行ヒ十四年二月十日全ク工ヲ竣フ殿宇ノノ配置概ネ舊ニ則ル費額金六千七百圓也茲ニ大要ヲ鐫シ以テノ之ヲ不朽ト云爾 大正十四年九月一日

氏子総代七十七翁梅澤義三郎謹撰並書

碑文に依れば翌年の丹沢地震で神社社殿の背面

の急崖の崩れが伸びて社殿が傾いたので、その前に土地を持っていた中丸重郎兵衛が 2300m²(40-50m 四方)の土地を用意し、住民の寄付によって社殿を前に移転させたとある。

図 20 で移転記念碑の横にある小さい碑は平成 8 年の鳥居の奉納碑である。また社殿の前にも小さな碑があり、平成 3 年の社殿改築記念碑であることから、現在の社殿はその後改築されたものであることが分かる。また社殿内には「山際神社震災復興記念」として、関東大震災後に社殿を移転した際の完成を祝った当時の写真が掲げられている。

さらに社殿の後ろ側の土地には旧跡地を示す石碑が建っている(図 21)。



図 20 山際神社の社殿移転記念碑

Fig.20 Memorial tower of the movement of the main hall of Yamagiwa Shrine in Aatsugi.



図 21 山際神社の社殿旧趾碑

Fig.21 Memorial tower of the historic site before the movement of main hall of Yamagiwa Shrine.

山際神社社殿旧趾碑

(正面)山際神社社殿舊趾

(左面)大正十四年乙丑九月一日建氏子

(台座右側)

奉納 株式会社 丸正産業／代表取締役 中丸恭一
昭和六十二年一月吉日

石碑の年代から移転が完成したのと同時に建てられ、昭和62年に改修されたようである。石碑の向こうは相模川へ向って断崖となっている。

3-4 海老名・綾瀬・大和市

(1) 浄土宗増全寺(海老名市中新田2丁目)

海老名での記念碑は小田急線厚木駅の南東地域に集中している(図2)。その中で最も駅に近いのが増全寺で、約400mの位置にある。門を入り本堂手前の門柱の右脇に慰霊碑がある(図22)。

震災横死者慰霊塔

(正面)

大正拾貳年九月一日震災横死之靈

(右側3段に15人の氏名)

(左側3段に13人の氏名)

(裏面)

昭和貳年八月建設

増全寺三拾四五世

施主 玉城荘全

震災で亡くなった28人の檀信徒の名が刻まれている。当時の住職が建てたものと思われる。門柱には左柱裏に「三十四世玉城荘全七十七才」とあり、右柱裏に「大正丁巳季喜寿建設」とある。丁巳は1917(大



図22 増全寺の慰霊塔

Fig.22 Memorial tower of Zosen-ji Temple in Ebina erected for the soul of victims.

正6)年であり、慰霊碑建立の1927(昭和2)年は10年後にあたり、住職が米寿を前にして建立したと推察される。

(2) 諏訪神社(海老名市中新田2丁目)

増全寺から東へすぐの所に諏訪神社がある。小田急線厚木駅南東約500mの場所である。社殿の正面に向かって左側に大震災記念碑がある(図23)。危険防止の為にフェンスで囲まれている。



図23 諏訪神社にある震災により壊れた鳥居の残骸で作られた震災記念碑

Fig.23 The monument at Suwa Shrine in Ebina made from the materials of destroyed torii by the earthquake.



図24 諏訪神社にある旧鳥居の基礎と説明の石碑

Fig.24 The basement of the old torii at Suwa Shrine destroyed by the Great Kanto earthquake.

大震災記念碑

(正面)大正十二年九月一日大震災記念

(裏面)大正二年七月建之

1913(大正2)年に建立された鳥居が震災で壊れ、その残欠を利用して建てられたものであろう。記念碑に刻まれているのはこれだけであるが、現在の鳥居(昭和41年7月建立)の前に以前の鳥居の基礎が残されており、そこに以下のように刻まれた碑がある(図24)。

(正面)

大正十二年九月一日

関東大震災で倒壊した鳥居の基礎

(裏面)

平成十八年九月一日／氏子



図25 大島記念公園にある震災記念碑

Fig.25 The monument for the earthquake at Oshima Memorial Park in Ebina.

(3) 大島記念公園(海老名市中新田1丁目)

諏訪神社から県道46号線を渡ると大島記念公園がある。この地は大島正健の生家があったところで、生家は関東大震災で倒壊、故人の遺志により1987(昭和62)年に海老名市に公園として寄贈された。大島(1859-1938)は教育者で、札幌農学校(現在の北海道大学)の第1期生としてクラーク博士の教育指導を直接受けた一人である。クラークの 'Boys, be ambitious' (青年よ、大志をいだけ) との言葉を後世に残す上で大きな役割を果たしたと言われている。

由来は分からないが以下のように刻まれた震災の記念碑がある(図25)。

震災記念碑

(正面)

大正十二年九月一日

震災記念碑

昭和十四年春建之

建立年は大島が亡くなった翌年に当たるが、建立者は分からない。

(4) 川寿稲荷神社(海老名市中新田3丁目)

県道46号線を南下し首都圏中央連絡自動車道の海老名インター入り口を右に曲がると右手に畑が広がりその向こうの住宅地の中に小さな稲荷神社がある。小田急線厚木駅南南東約700m付近である。その入り口左側にも鳥居の残欠で造られたとみられる震災記念碑がある(図26)。角柱と丸柱の2本が建っている。

大震災記念

(角柱正面) 大震災記念

(角柱裏面) 大正十二年九月一日

(丸柱正面) 大正九年三月建之

なお現在の鳥居は左柱裏に「昭和十四年三月建之」、右柱裏に「願主 平井 清」と書かれている。



図26 川寿稲荷神社にある震災記念碑

Fig.26 The monument for the earthquake at Senju Inari Shrine in Ebina.

(5) 深谷上6丁目墓地(綾瀬市深谷6丁目)

次は綾瀬市にある記念碑である。いずれも地神塔に刻まれたものである。地神は畑の神、農業の神で、地神をお祭りするために人々が集まる行事を地神講といい、構成員はすべて農家であった。

綾文第10集から震災記念に建てられた地神塔が3つあることが分かった。第一は小田急線長後駅北西約4.5kmの墓地脇の地神塔である。相鉄バス保健医療センターで下車し、市役所と反対方向へ比留川

に架かる観音橋を渡ると右手に長竜寺があり、その前の県道 45 号線から左に入る小道を 200m ほど行くと左側に墓地が見え、その路傍に地神塔がある(図 27)。



図 27 深谷上六丁目墓地にある震災記念の地神塔
Fig.27 Jishin-to erected for the memory of earthquake at grave yard of Fukaya-kami in Ayase.

地神塔

(正面) 地神塔

(左面) 大正十三年九月社日建之上深谷

(右面) 大震災記念大正十二年九月一日

(台座正面) 東講中

(注) 綾文第 10 集記載の通り

ここで社日とは地神講が開かれる日で、年に 2 回春秋の彼岸に最も近い戊(つちのえ)の日のことをいう。



図 28 深谷神社にある震災記念の地神塔
Fig.28 Jishin-to erected for the memory of earthquake at Fukaya Shrine in Ayase.

(6) 深谷神社(綾瀬市深谷中5丁目)

次は小田急線長後駅北西約 3.5km にある深谷神社境内の地神塔である。神奈中バス綾瀬農協前で下車すると目の前に深谷神社がある。地神塔は社殿の左側、境内の外れに道路に面して建っている(図 28)

地神塔

(正面) 震災記念/地神塔

(左面) 昭和二年三月廿五日建設/深谷中村/秀之木

(右面)

大正十二年九月一日古今未曾有ノ大震災アリ講中十四戸ノ内住家全潰八棟其他十二棟余ハ半潰セリ

(台座正面) 講中

(注) 綾文第 10 集の記載 1ヶ所訂正

この碑には被害状況も書かれており、講中 14 戸のうち 6 割近い 8 棟の住家が全潰し、その他の建物も 12 棟が半潰ということで、かなり大きな被害が出たことが分かる。



図 29 深谷中7丁目稲荷神社の震災記念の地神塔
Fig.29 Jishin-to erected for the memory of earthquake at Inari Shrine of Fukaya-naka in Ayase.

(7) 深谷中7丁目稲荷神社(綾瀬市深谷中7丁目)

神奈中バス綾瀬農協前と大邸のちょうど中間にあたる綾瀬中郵便局前の交差点をバス道路からはずれて東に入り 2 筋目を左に曲がり、高橋クリーニング店を目印に、なおも進むと左手に竹藪がある。その中に小さな稲荷神社が建っている。その敷地内に地神塔がある(図 29)。

表 2 石碑に書かれた村落講毎の被害

Table 2 Summary of disaster for each village caved on the monument

現在の市	村落名(講)	戸数	死者	全潰	半潰	全焼	場所	建立時期	備考
伊勢原市	大田村		35				大田小隣地	大正13年3月	
厚木市	中戸田		10				八幡神社	昭和4年9月	7回忌
厚木市	上戸田		7				子易神社	昭和10年9月	13回忌
厚木市	相川村		31	369	515	1	相川中隣地		
厚木市	厚木町	1008	28	549	208	251	大橋際	大正13年9月	1周忌
海老名市	中新田		28				増全寺	昭和2年8月	
綾瀬市	(秀之木)	14		8	(12)		深谷神社	昭和2年3月	
綾瀬市	(谷戸)	21		11	10		稲荷神社	大正14年9月	3回忌

* 全半焼はいずれも住家数、()は非住家を含む

地神塔

(正面)復興/地神塔

(左面)大正十四年九月吉日建之/深谷中村谷戸

(右面)

大正十二年九月一日大震

災アリ講中二十一戸ノ内住

家十一棟其他二十四棟全潰

シ餘ハ皆半潰ス

(台座正面)講中

注)綾文第10集の記載通り

ここでも被害の記載があり、講中21戸のうち半数以上の11棟の住家が全潰し、他の建物も24棟が全潰で、残りは全て半潰と書かれている。

大和市については、唯一小田急江ノ島線の桜ヶ丘駅近くの福田神社付近に震災に関連した馬頭観世音があるとの情報を得[大和市(1982)]、現地を訪れたが確認できなかった。

§4. まとめ

本稿で調査の対象とした地域は相模川中流域を中心に伊勢原、厚木、海老名、綾瀬、大和、座間の各市である。南部の低地で被害が多く、北部では被害が少ない傾向にあり、それに応じて慰霊碑や記念碑の数も伊勢原市南部や厚木市南部、さらには海老名市・綾瀬市に多い。碑文から読み取れる被害の数字を村落毎にまとめて表2に示す。いずれも南部の地域に属す。特に被害の大きい厚木市内の旧相川村では村全体の慰霊碑の他に被害が多い中戸田や上戸田にも集落ごとに慰霊碑がある。被害の種類は揺れによる建物倒壊が中心であるが、厚木町では250戸を焼く大きな火災があった。また厚木市の山際神社では相模川のがけが崩れるなどの土砂災害もあった。さらに断層運動による下流部の地盤の隆起に

よって玉川では地震後水害が多発し流路を変更するなどの対策を取らざるを得なくなった。さらに当地方には、翌年1月の丹沢の余震による影響が少なからずあったこともうかがえる。

調査をして気が付いたが、厚木市中戸田の八幡神社や上戸田の子易神社の碑には「不慮ノ天災ニ備フルノ用意ヲ来者ニ促ス」や「不時ノ天災ニ具フルノ用意ヲ後世ニ傳フ」、さらに宝蔵寺の大震災供養塔では「不言ノ警告ヲ百世ニ垂レント欲スル」など、二度とこのような災害に遭わないよう後世の人々に働きかけたいという強い意志を感じる言葉が並んでいる。後世に生きる者として重く受け止める必要がある。

本調査の結果の一部は、2013年5月29日に伊勢原市の自修館中等学校での講演で中学1年生から高校3年生の生徒にお話した。科学至上で前ばかり向かされている生徒たちに、自分たちの足元に90年前の震災体験者の大切なメッセージがあることに気づいてもらい、現在の自分たちの在りようを見つめ直すきっかけになって欲しいと考えた。講演後に送られてきた生徒のレポートを見ると、科学技術に身をゆだねるだけではなく、過去の経験も勉強して自分のこととしてしっかり震災対策を考えて行こうという決意が感じられた。講演の機会を与えていただいた海老名豊昭教頭先生をはじめ関係各位に感謝します。また本報告が今後の地域における地震教育の一助になれば幸いです。なお本研究はJSPS 科研費 25350496の助成を受けたものである。

対象地震：1923年大正関東地震

文献

厚木市教育委員会, 1970, 厚木の石造物(記念碑), 厚木市文化財調査報告第12集, 89pp.

- 綾瀬市教育委員会, 1987, 綾瀬の石造物(二)文化財調査報告書第10集,140pp.
- 伊勢原市文化財協会, 2009, 伊勢原市石造物調査報告書(一)岡崎地区,30pp.
- 伊勢原市文化財協会, 2012, 伊勢原市石造物調査報告書(二)大田地区前編,116pp.
- 伊勢原市教育委員会, 1972, 伊勢原の金石文, 337pp.
- 平塚市市史編さん課, 1982, 平塚市史民俗調査報告書 1.神田・城島, 301pp.
- 関東大震災の跡と痕を訪ねて
[http://www5d.biglobe.ne.jp/~kabataf/kantoujisin_isibumi/kantoujisin_densikokudo.html](http://www5d.biglobe.ne.jp/~kabataf/kantoujin_isibumi/kantoujisin_densikokudo.html)
 kasen.net.日本の川と災害
<http://www.kasen.net/>
- 諸井孝文・武村雅之, 2002, 関東地震(1923年9月1日)による木造住家被害データの整理と震度分布の推定, 日本地震工学会論文集, 2(第3号), 35-71.
- 諸井孝文・武村雅之, 2004, 関東地震(1923年9月1日)による被害要因別死者数の推定, 日本地震工学会論文集, 4(第4号), 21-45.
- 西坂勝人, 1926, 神奈川県下の大震火災と警察, 警有社, 496pp.
- 力武常次, 1997, 地震・津波碑探訪その6, 地震ジャーナル, 24, 84-98.
- 山水楼ホームページ
<http://www.kabutoyu.com/concept.html>
- 武村雅之・篠原憲一, 2010, 神奈川県平塚市での関東大震災の跡—慰霊碑巡礼の記録, 歴史地震, 25, 91-100.
- 武村雅之, 2011, 神奈川県秦野市での関東大震災の跡—さまざまな被害の記憶, 歴史地震, 26, 1-14.
- 武村雅之, 2012, 関東大震災を歩く—現代に生きる災害の記憶, 吉川候文館, 328pp.
- 武村雅之, 2013a, 神奈川県茅ヶ崎市・寒川町での関東大震災の跡—相模川東岸地域の被害と復興, 歴史地震, 28 (印刷中)
- 武村雅之, 2013b, 横浜市における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構, 横浜都市発展記念館紀要, No. 9 (投稿中)
- 大和市, 1982, 大和市の石造物, 大和市史資料叢書 1, 129pp.